

ユニオン会議 (UP) の女性議員 メーザン・ラフマン (バングラデシュ)

バングラデシュでは村落の数が非常に多く (79,828 村落)、大多数の人びとが農村地帯に暮らしています。私たちの誰もが知っている組織である「ユニオン会議 (UP)」(インドにおける議会/村会) では、草の根レベルの活動を展開しており、コミュニティを代表する地元の行政組織としての役割を果たしています。バングラデシュ全体で見ると、4,486 の UP があります。バングラデシュの行政組織の中では、UP が 1 番下位に位置します。この会議の主要な役割は、公共の福祉、法と秩序の維持、税金の徴収、開発、救済・復興事業、政府や NGO から提供される食糧や物品の配給などです。補助金、税金、さまざまな手数料などが組織の収入源となっています。

UP を運営するのは、選挙で選ばれた議長 1 名、正規議員 9 名、そして女性議員 3 名です。議長や 9 名の正規議員のポジションについては、男性と女性のどちらも立候補することが可能です。また、女性議員の 3 名のポジションについては、弱い立場に立たされることの多い女性のエンパワメントやジェンダーの平等を達成するために、女性専用の議席とされています。UP の選挙は、全議席とも直接選挙です。UP の女性議員の多くは、貧困を撲滅するための開発の計画や実施に力を入れます。私が暮らす地域で以前議員を務めていたナスリン氏は、そのような開発に力を入れていました。新しく選ばれたモルジナ氏は、より良いサービスの提供に力を入れています。



UP 議員として活動を始めた、
ソーシャルワーカーのクルシダ氏

十分な食糧、救援、支援物資、開発プロジェクトのための資金を手に入れるには、村落レベルで、リーダーと有権者の間で絶妙なバランスを取ることが必要です。バングラデシュの農村地帯には、女性議員の議席 (直接選挙で選ばれた女性専用の議席) はもちろん、議長の議席も女性が占め、リーダーシップを発揮している村があります。こうした女性たちは、村中心の開発プロジェクトを指揮し、女性や土地を持たない人びとなどの社

会的弱者に食糧カードを提供し、福祉プログラムの運営・監視を行い、女性のための権利擁護および意識改革のプログラムを立ち上げています。ほぼ全ての女性の UP 議員が家庭で家事をこなしつつ、その一方で、草の根レベルの開発にあたり、女性のエンパワメントやジェンダーの平等を率先して進めています。

UP の中には、法と秩序、家族計画、女性と子ども、開発プロジェクトなどに関する各種委員会が設置され、UP 議員が委員長を務めています。しかし、開発プロジェクトに関する委員会については男性が委員長を務めるケースが多く、ジェンダーの不平等が見受けられます。また、委員会における仕事の配分についても、女性の UP 議員が自らの権利を奪われ

ることも少なくありません。さらに、法令上 UP に設置することになっている常任委員会についても、実際には設置されていないといった問題もあります。政府、CSO、NGO が、女性のエンパワメントに関するメディアキャンペーン、女性の UP 議員のための研修、地方でのさまざまな活動などに対して積極的になれば、女性の UP 議員が農村地帯に社会経済面での変革をもたらす主要な存在として、さらに大きな役割を果たすことも可能になります。そうすれば、UP の女性議員は補助金を未亡人、貧困層、障がいを持つ人びとに分配し、法と秩序を維持することができます。そして、性的嫌がらせを止めさせ、女性や子どもの人身売買を防止し、また、強姦事件、女性に対する暴力、離婚、子どもの結婚、結婚の持参金に関する問題が発生した際には、仲裁にあたることができます。

また、自治省、国会議員 (MP)、県行政長官 (DC)、小区域行政官 (UNO)、議長が、女性に割り当てる仕事の量を増やし、女性の UP 議員のエンパワメントを進めることで、女性の UP 議員が開発に関するさまざまな分野のパイオニアになることも考えられます。そのためには、集中的な研修を受け、農村地帯の福祉プログラムの拡充を目指し、現実的な取り組みを実施できるようになる必要があります。

女性の UP 議員は、サイクロン、飢饉などの天災により日々の生活が困窮している今、人びとの声に耳を傾け、実際に行動に移す大切な存在なのです。